

# SNSは自動車と同じくらい危険なんだ

インターネットのリスクと安全な使い方について、年700回超の講演をこなす篠原嘉一さん。今回、小学生におけるSNSを使ったネットトラブルの現状と問題を聞いた。

SNSを介するトラブルの現状はどうなっていますか？

最近被害者だけでなく、加害者になる事例が増えています。不正アクセスや盗撮画像の投稿、課金せずにゲームなどを不正利用するなど……大人が想像も及ばない事案が小学生にまで広がり始めています。いずれもネットで知り合った相手に教えてもらっていますから、起因はSNSやチャットです。他方、ショート動画に依存してしまい、落ち着いて学校生活がおくれない低学年の児童が増加しています。ショート動画を長時間見続けると脳に悪影響が出るという研究結果が報告されています。小学4年生になればインスタグラムをやっていますし、性的な動画を見ている子どももいます。上級生ではディスコードでゲームの不正改造をやったという事案があります。

居場所のない青少年がトー横とかグリ下にたむろしています。これはこれで問題ですが、現場には福祉関係者や警察などの目があります。ネット空間が怖いのは誰の目にも触れず、犯罪行為に及ぶ危険性があることです。Wi-Fiのある子ども部屋でアプリを開くと、そこにフレンドという名の犯罪者が潜んでいる。もちろんそこに補導員は来ないし、鍵をかけていれば親も入れません。こうしたことが実際にあるんです。悪意のある大人が、子どもが興味を引くコンテンツをネットにあげて、それを「推し」てもらい、「フォロアー」になってね」ってSNSを使って近づ

いてくるのです。

諸外国では子どものSNS利用が法規制されてきています。

SNSには未成年者が利用しない方がよいと思われるサービスがあります。でも日本には規制がありません。キャリアも標準アプリ以外のものに口を出しませんし、メディアはスポンサーの関係からかあまり触れることがなく、使う側にリスクが伝わっていません。事業者などにとつてSNSはマーケティングやPR効果の高いサービスですが、子どもにとっては触れなくてよい情報まで伝わってしまうツールです。残念なことに、事件になってようやくリスクについて報道されるのが実状です。

ユーチューブやインスタグラム、ティックトックなど、SNSのアプリにはそれぞれ子ども向けにルールを設定しています。しかし、あまり効果は上がっていません。アルコールやたばこが、なぜ20歳未満禁止なのか、いうまでもなく、子どもの心身に悪影響があるためです。人権も健康もすべてSNSが絡んでいます。SNSがスマホに入っていないければ何も問題は起きないという過言ではありません。保護者から「子どもが事故や災害に巻き込まれたら心配なのでスマホを持たせたい」ということをよく聞きます。わたしは、スマホからSNSのアプリをすべて消して、メールやメッセージアプリだけにすることを勧めています。でも実



NET情報技術推進ネットワーク株式会社  
篠原 嘉一 (しのはら・かいち)さん

際はそうなっていません。ですから、日本もなんらかの法整備が必要になってきたんじゃないですか。とはいえ、法律による禁止規制に国は後ろ向きです。それを踏まえて言えば、いまSNSの危険性や有害性について、どれほどの大人が関心を持っているでしょうか。SNSによって子どもが容易に被害者や加害者になってしまう時代です。たとえば、自動車を子どもに買い与えて、免許もないのに運転させる親はいません。SNSもそれくらい危険な側面があるものと保護者や周りの大人は認識しなければなりません。まず、リスクをしっかりと理解すること。そして、人間同士のコミュニケーションを高めるために、ネット空間で学ぶだけでなく、親や近い大人から学ぶことを優先した生活がデジタル時代を生きていく子どもたちには必要だと思います。